

信濃美術館の今後のあり方及び整備に関する基本方針の概要（平成28年9月12日報告）

経緯・現状

- 昭和41年10月 開館（49年経過）
昭和44年6月 長野県に移管
平成2年4月 東山魁夷館 開館
- 管理運営：長野県文化振興事業団
※ H18.4月～指定管理
館長以下 15名体制
※ うち学芸員7名（正規2名）
- 収蔵品数 5,000点（うち本館4,032点）
- 入館者数 13万7千人（H26）
※ ピークはH2年の45万8千人

主な課題

- 善光寺に隣接する有利な立地条件を、集客につなげられていない。
※善光寺の来訪者：年間約600万人
美術館の入館者：年間約17万人（過去5年）
※H27御開帳 に707万人が来訪
この期間の入館者は3万3千人
- 老朽化が著しく、狭隘でバリアフリー化も遅れているため、幅広い年代層に美術に親しむ機会を十分提供できていない。
- 全国一の数を誇る県内 105館の美術館の中核を担える体制がなく、信州の多様な文化芸術の魅力を十分に発信できていない。
- 学芸員が不足しており、他の美術館の支援や調査研究等を十分に行い得ない。
※H10以降開設の延床面積1万㎡以上の県立美術館の平均11人（正規9人）
- 展示室が狭く、大規模企画展の開催が困難。また、老朽化等により、貴重な美術品の管理に支障を来すおそれがある。
- 信州ゆかりの貴重な収蔵作品の展示の機会を十分に確保できていない。

コンセプト

ランドスケープ・ミュージアム

国宝・善光寺や東山魁夷館、信州の自然・山並みと調和し、一体化した美術館

- 優れた芸術作品を国宝・善光寺、庭園、信州の自然美とともに楽しむ機会を提供
- 誰もが気軽に集い、憩えるパブリックスペースを提供

美術による学びの支援

- 子どもからお年寄りまで、美術に親しみ、楽しみながら感性を磨き、様々な才能を伸ばす機会を提供
- 小中高校生や大学生に美術から学ぶ機会を提供
- 信州ゆかりの芸術家や地域の芸術活動を支援

信州と世界の交流ステージ

国内外の人々が集い、信州の魅力を発信する文化・観光の一大拠点

信州の地域文化の多様性を活かす

- 信州の多様な地域文化をネットワーク化して紹介
- 県内の美術館ネットワークの中核を担い、信濃美術館収蔵品の巡回展など連携・協働の取組を推進
- 県内美術館の紹介など文化芸術に関する情報を収集・発信。調査・研究など県内の学芸員の活動を支援

世界水準の作品展示と信州芸術の紹介

- 国宝・重文級の作品や世界的にも著名な作品など世界水準の芸術作品の鑑賞機会を提供。全国規模の巡回展の企画・開催
- 郷土の芸術家の紹介、信州ゆかりの芸術家の育成支援・国際交流の促進
- 将来性ある芸術家の作品など「進化・成長する美術館」をめざしての作品収集

施設整備の考え方

立地条件を活かした整備

- 周辺の山並みや自然美と調和するランドスケープ・ミュージアム
- 善光寺東庭園と城山公園の回遊性を高めるために周辺を整備
- 新県立美術館と市道に囲まれた城山公園は、共通のコンセプトに基づき一体的に整備

既存施設との関係

- 信濃美術館の管理棟・展示棟は全面改築
- 改築部分と東山魁夷館は、機能性や利便性から接続し、施設を共用化

施設の配置

- 城山公園内に配置
- 施設配置や公園を含めた周辺整備は長野市や善光寺との協議を踏まえ、設計において調整

施設の規模・性能

- 東山魁夷館を含めて延床面積12,000㎡程度を基本に設計において調整
- 国宝や重要文化財の展示や保管に支障のない性能

設計者の選定

- プロポーザルを基本とし、長野県の気候風土への配慮を条件化
- 選定方法のメリット・デメリットを整理し、国や他県の調査研究を進め、さらに検討

運営の考え方

安定した運営体制

- 長期的な展望、継続性を持った責任ある運営や専門性の高いスタッフの育成が行える体制（長期の指定管理者制度の導入等）

スタッフの充実

- 学芸員等の充実